

かぜ や

風屋



風屋といえばダムを抜きには語れません。

風屋ダムが竣工したのは 1960 年（昭和 35）です。ダム工事の時は工事関係者の流入で大変な人口増となりました。

千人規模の飯場集落が出現し、商店や映画館が立ち並び、街のような賑わいがあったといいます。しかし、ダムが竣工すると、まさに潮が引くように人口は減少していきました。風屋のほか、流域の川津、林、上野地の計 108 戸が水没し、現在の国道 168 号沿いに移転して、新たな集落が形成されました。

盆踊りは 8 月 13 日に、川べりの駐車場に櫓をたて、提灯を吊って行われます。開始は午後 7 時過ぎで、午前 0 時に終わります。盆踊りのレパートリーは 15 曲です。

風屋の踊りの特徴は明快でダイナミックな所作にあります。踊りは下から上に扇をあげたり、横八文字（∞）を描いたりという基本動作のバリエーションからなっていますが、独自の振り付けによって他字との違いが鮮明になっています。近年は若手の方々の学習成果が目覚ましく、これからの風屋の盆踊りの展開に大いに期待が寄せられています。

風屋の盆踊りは 20 世紀末に一旦幕を閉じましたが、2010 年（平成 22）に 10 年ぶりに復活されました。中心人物が下垣和夫さんですが、保存会は作っていません。10 人くらいが担い手の核となっています。風屋在住の建設業今西組がスポンサーとなって、金魚すくい、たこ焼き、生ビールなどが無料で提供されています。社長によると、盆踊りは単なる娯楽ではなくて、先祖への供養であり、みんなが出会う場でもあるから、やめるわけにはいかないとのこと。（中川）



風屋

撮影：十津川村教育委員会



風屋

撮影：田花三蔵



風屋

撮影：佐古金一